



巻頭言

高専校長になつて

阿河利男*

約40年在職させていただいた大阪大学工学部を今年4月に退官して、和歌山高専校長に就任致しました。高専についてはご存知の方も多いと思いますが、簡単に紹介致します。

最初の高専は昭和37年に創設されましたが、以来増設されて国・公、私立併せて62校になっております。和歌山高専の場合、機械・電気、工業化学、土木の4学科で、各科40人の定員です。実践的技術者の養成を目的として、6・3・3・4のシステムの外に作られた学校で、高校、大学を5年間に圧縮して教育が行われています。低学年3年間は高校と大学教養課程を併せたカリキュラム、高学年2年間は大学工学部専門課程のカリキュラムが採用され、両者を有機的に組み合わせ、5年間の一貫教育になっております。高専教育の大きな特徴は、教育寮と言われる寄宿舍のあることで、教官全員が交替で宿直をするシステムが取られています。

着任当初は少し面倒見がよすぎるのではないかと思いましたが、15歳から20歳までの若い学生を教育するので、仕方が無いことが分かりま

した。研究主体で最先端の研究を通じて学生を教育する大学と、人間教育を基にしてキメ細かに技術教育をする高専の立場の違いがよく分かりますが、両者それぞれ一長一短があるように思います。最近の高専においても教官の研究活動を奨励するようになって来ましたが、良い傾向だと思っています。

高専へ来て最初の後援会理事会の席上、高専の卒業生は現在約45の大学へ編入学できるようになっているが、関西の二三の有名大学が受け入れてくれない。是非この問題を解決してくれと言われて大変困りました。何とかしたいものと思っています。

6・3・3・4か6・3・5の違いはあっても、我が国の工業を支える優秀な技術者の養成は非常に大切な仕事であります。高専は設立されて、日も浅く、卒業生も少ないので現在は目立ちませんが、その内、優れた技術者が出てくるものと期待しています。皆様方の高専への御支援を心からお願い致します。

*阿河利男 (Toshio AGAWA)。和歌山工業高等専門学校、校長 (大阪大学名誉教授)、工学博士、応用化学